

ニュースレター

NPO法人 家庭的保育全国連絡協議会



25号 2016.10.24

～保育のスキルアップを会員相互の交流で～

NPO 法人家庭的保育全国連絡協議会 理事長 水嶋昌子

子ども・子育て支援新制度が昨年スタートし、認可事業となったことで、関係する事務処理や給食提供のための周知準備などに追われ、慌ただしく日々を過ごしてきたように思います。まだ連携施設が決まらない、給食提供ができていない、という保育者も多く、同じ家庭的保育でも自治体の関わり方によって地域の違いが生まれています。新制度がどの家庭的保育にも反映するように、今後も自治体の協力が得られるよう働きかけていきたいと思っています。

新制度の目的は「保育の量的拡大と保育の質の向上」ですが、すべての子どもが健やかに成長するための支援は、良質で適切なものでなければならない、とあります。保育に携わる私たち家庭的保育者は、専門職として常に保育の質の向上を図っていかなければなりません。

保育の質は、何といたっても保育内容そのものが重要です。9月25日に開催された草津市での「いっしょにあそぼ！」10月9日の名古屋市での「会員交流会」に参加しましたが、その地区の保育者が協力しあって計画をし、それを練り直して準備、実施をしていました。その中で保育者同士がつながりを深め、意見や情報を交換しながら感じたり学んだことを自分の保育に取り入れていく、それは保育の質の向上そのものだと思信しました。草津市の「いっしょにあそ

ぼ！」には、隣接地区の大津市の会員が、自分たちのイベントのように朝早くから終了後まで手伝っていました。全員が一つになることで、達成感と充実感を感じていました。

名古屋市の「会員交流会」には、遠く九州からや、初めて家庭的保育を始める自治体の第1号認定の保育者も参加していました。

家庭的保育は小さな保育形態です。以前は密室性が問題にもなりましたが、こうして地域を越えて「家庭的保育者」ということでつながれるのは、まさに新制度にふさわしい、新しい家庭的保育だと思います。イベントの詳細は、この25号で紹介しています。

子どもの保育に携わる家庭的保育者として、まず自分たちが交流し、相互に保育のスキルアップを図っていきましょう。そのために当協議会が役立てるなら嬉しく思います。

10月29日（土）は、大津市「いっしょにあそぼ！」11月5日（土）は、茨城県水戸市で「会員交流会」を開催致します。ぜひ、参加してみてください。

秋らしいお芋ほりや運動会などを実施中と思いますが、これから冬に向かっては、感染症やインフルエンザが流行ってきます。手洗いやうがいなど、健康管理に注意し、子どもたちも保育者も元気に過ごしましょう！

- ◆1P はじめに「保育のスキルアップを会員交流で」
- ◆2P 死亡・重大事故の再発防止策に関する国の動き2
- ◆3P 第48回全国保育団体合同研究集会 in 島根報告①
- ◆4～5P 島根合研特別分科会提案者/参加者報告②③
- ◆6P 草津市「いっしょにあそぼ！」報告
- ◆7P 上記展示紹介/名古屋市会員交流会感想
- ◆8P 名古屋市「会員交流会」報告

- ◆9P はじめの一步⑤
- ◆10P 私の保育⑨
- ◆11P おすすめ絵本⑩
- ◆12P 川崎市「いっしょにあそぼ！」報告
- ◆13～14P 事務局からのお知らせ
※現任研修案内/新情報連絡会報告/熊本礼状報告/
情報配信/東京都研修案内/東京合研案内 他

教育・保育施設等での 死亡・重大事故の再発防止策に関する国の動き 2

家庭的保育全国連絡協議会会長

教育・保育施設等における重大事故防止策を考える有識者会議委員 鈴木道子

内閣府より、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」の取り組みについて、改めて事業者への周知徹底をお願いする旨、情報提供がありました。

■ガイドライン等について

ニュースレター24号でも報告したように、平成28年3月完成の「事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」は「事故防止のための取組み」施設・事業者向け、地方自治体向け、「事故発生時の対応」施設、事業者、地方自治体共通内容 が作成されています。

食事中に多い窒息については、ガイドライン「事故防止のための取組み」施設・事業者向けP16～27に、窒息事故を防ぐための安全な食べさせ方等が書かれています。本協議会のHPの情報クリップからもダウンロードが可能ですので、これらのガイドラインを開いて、事故を防ぐための取組みについて保育者同士で話し合いましょう。

■データベースについて

事故防止を目的に、昨年度から特定教育・保育施設等における事故情報データベースが内閣府の子ども・子育て支援新制度のサイトで公表されています。

この事故の情報については、3か月ごとに更新されていて、平成28年4月1日から6月30日までの間に5件、7月1日から9月30日までの間に5件の死亡事故が報告されています。死亡事故の詳細についてまだ記載されていませんが、内閣府によると午睡中の事故が多いとのことでした。

■新しい情報提供について

このような現状を踏まえ、内閣府より、子どもの睡眠時の注意事項をまとめたミニポスターと、事故防止のポイントをまとめた周知啓発資料、2種類の情報提供がありました。2種類とも活用しやすく、本協議会のHPの情報クリップからもダウンロードが可能となっていますので、是非参考にして下さい。

◆「児童虐待防止対策協議会」に、NPO 法人家庭的保育全国連絡協議会も参画します！

現在、児童虐待が深刻な社会問題になっています。「すべての児童は、心身ともに健やかに生まれ、育てられ、その生活を保障される」と児童憲章には謳われています。すべての子どもが虐待を受けずに健やかに成長できる社会を目指すために、厚生労働省・虐待防止対策推進室では、虐待防止にかかわりの深い関係府省庁や関係団体の取組を報告する、児童虐待防止対策協議会を運営しています。今般この協議会に構成団体としての参画の要請があり、参画させていただくことになりました。子どもや保護者との関わりを通して、家庭的保育でも児童虐待防止をより深く意識して活動していきましょう。



保育形態の違いを超えて提起された現状と課題

第 48 回全国保育団体合同研究集会 in 島根

◆開催日・開催場所 8月20日(土)～22日(月)

島根県松江市/くにびきメッセ・島根大学他

◆参加者数 4,836名

合研特別分科会では、家庭的保育に関し複数制など配置基準の大幅改正、保護者・保育者・行政三者の連携組織化、行政の予算計画見直しなどが提起されました。それぞれの保育形態の相違を超えて活発な質問と問題提起、検討がされた分科会でした。以下提案をご紹介します。

◆参加分科会 特別分科会 30『地域型保育
および認可外施設の現状と課題』

世話人は佛教大学杉山隆一先生。参加者は、当協議会から福川理事・鈴木会長など10名。その他、川崎市行政担当者、米子市議会議員、大学内保育所保育士、保護者、小規模保育事業代表者など35名でした。

◆提案内容 ①「中野区における待機児童
対策と新制度に対する対応」

中野保育問題協議会 長澤 史氏

2000年からの保育実態報告があり、待機児解消のために定員弾力化が図られていて、そのための諸問題についても紹介されました。

家庭的保育事業 11カ所に対しては、2013年から休暇支援 18園、2015年からは代替保育が実施されているとのことでした。

保育園定年後の職員が再任用され(2名・週4日・7:15～19:15)要望のあった連携園へ派遣されているそうです。中野区全園への派遣なので、受託児も初対面であり、双方の負担が懸念されますが、家庭的保育事業への支援として、今後共の継続・実施をお願いしたいと思いました。

②「事業所内保育施設での取り組み」

大津赤十字病院院内保育所 原田和美氏

57名の受託児(保護者全員が看護師)を、21名の保育士(正職員7名)が保育。老人病棟や

小児科病棟との交流など、院内保育所ならではの保育が紹介されました。

21年目となる院内保育所交流集会では、講師と共に食物アレルギーや乳幼児の発達、人形劇や自然を活かす遊びなどを、他府県の保育士と学んでいるとのことでした。

課題としては、近年他の保育園にも保護者が申し込んでいて、ギリギリまで入園可否が判らず、慣らし保育が十分にできないことだそうです。受託児全員に平等で手厚い保育をしたいとの熱い思いを感じる報告でした。

③「認可事業者としての責任と家庭的保育
ならではの育ち」

千葉県大網白里市

鈴木家庭保育室 鈴木桂子氏

60年以上の歴史がある家庭的保育ですが、国が制度化したのは、2000年と最近のことです。それまでの推移がまず紹介され、次に家庭的保育の特徴である異年齢保育・同じ保育者による成長に合わせた丁寧な保育・地域全体から見守られる保育などについて報告がされました。

補助者雇用費の保障や、資格・経験による保育者の処遇改善など、新制度での改善点も紹介されています。今後の課題としては、受託児3人以下の完全複数制についての提案がされました。安心・安全な保育の観点から、複数制訴求を継続したいとの意欲を感じました。

(高槻 由美子)

保育の違いを超えて連携を考えた分科会

東京都中野区保育問題協議会 長澤 史

合研集会/地域型保育および認可外施設の現状と課題の分科会で、私は、中野区の待機児童対策を、公立保育園保育士の立場から提案、報告させていただきました。

2000年から2015年までの保育実態を報告しましたが、定員弾力化が恒常化し、保育士の負担が増え、保育の質の確保が難しい状況となっています。待機児解消は、区立保育園と、同等の認可保育所の増設で対応することが望ましいと考えます。

家庭的保育事業との連携ですが、日常保育での子どもの交流や、子どもの発達に関する相談、保護者支援の相談などが実施されています。2015年度からは、家庭的保育支援業務として、代替え保育を再任用職員が担当することと、休暇取得や研修参加、病気等の場合、区立保育園4園で乳幼児の代替え保育をすることが行われています。

今回の分科会で、他の方の提案を聞かせて頂き、またその後、参加者の皆さんの討論のなかで、保育に対するその熱い思いに触れ、とても感動しました。日々の保育で、様々な問題を感じながらも、皆さんが、一人一人の子どもに丁寧に、まさに家庭的に保育されていることを知りました。日々ご苦労されている中から素晴らしい実践をされていると感じました。どんな形で連携ができるのか、さらに考えていきたいと思いました。

各地の保育者から元気を頂いた分科会

滋賀県大津市 大津赤十字病院院内保育所 原田和美

地域型保育および認可外施設の現状と課題の分科会で、『事業所内保育施設での取り組み』を提案しました。まず院内保育所の現況ですが、本年度4月の園児数は、53名。定員はなく、産休明けから就学前までの保育です。5年前に、地域保育園に入園できなかった子どもが7名おり、6か年保育となりました。育児休暇が3年取得できるので、1歳未満児も少なくなっています。昭和35年に託児所として開設し、今年で55年の歴史があります。看護師である保護者が安心して働き、より良い医療を提供できるように、子どもの気持ちに寄り添った、家庭的な雰囲気の保育を心掛けています。

事業所内保育施設の役割として、日々の保育は勿論のことですが、入院している子どもたちとも関わり、小児科病棟の看護師さんに遊びの知識を伝えたり、イベントで、絵本の読み聞かせを担当したり、総合支援センターで重度クラスの療育を学んでから「乳幼児の遊びについて」の学習会を開くなどの取り組みをしており、紹介致しました。

「地域型保育および認可外施設」が一つになった分科会でしたが、それぞれの環境で日々目の前にいる子どもと向き合い、頑張っている保育士の皆さんと知り合うことができました。成長の過程で最も大切な時期に、心を込めて丁寧に保育している皆さんと出会い、とても嬉しく、また頑張ろうと思いました。参加させて頂いて、本当に良かったです。

保育の多様性が理解できた分科会

千葉県大網白里市 家庭的保育者 鈴木桂子

今年の合研は「認可事業者としての責任と家庭的保育ならではの育ち」と題し提案しました。今回の分科会は家庭的保育だけではなく小規模、事業所内、認可外と合同だったので、初めに家庭的保育以外の方々に家庭的保育を知ってもらうため、日々子どもたちがどのように過ごしているのか、また保育者と愛着関係を築き、地域に見守られながら育っている様子など「家庭的保育の特徴」を紹介しました。

次に、保育内容の充実と安全で安心な保育を行う為に、子ども3人以下の場合でも、特に0歳児を交えた保育には、常時補助者が必要であること、また完全複数制をしている自治体もあることを紹介しました。0～2歳児の異年齢小集団の中できょうだいのように育つ特徴を生かすには、生活リズムの違い等に配慮したり、発達の違いを考慮した保育内容の研究・工夫の必要性。保育の質を目指すには、現任研修や保育者同士の交流などを通し、研鑽を積むキャリアアップの機会の重要性。また、地域の連携施設や、地域の人たちから見守られる保育を大切にしていきたいことなどを提案しました。

連携施設や3歳児の壁など共通した問題や、研修に関する質問など、活発な意見交換がされ、参加者の熱意があふれていました。今まで知らなかった他の分野の状況や連携園の実情なども知ることができ、有意義な分科会でした。

保育の実情を見直す機会となった分科会

滋賀県大津市 家庭的保育者(家庭的保育室ぽこあぽこ) 新庄敏子

年に一度合研に参加する私の楽しみは、家庭的保育全国連絡協議会の全国の先生方とお会いして交流し、その地の美味しいものを一緒に食べたり、日頃の保育や経営の悩みを相談したり、各自治体の情報を知り、参考にして持ち帰ってくることです。今回も充実した時間を過ごすことができました。

分科会では、今年から家庭的保育だけではなく、地域型保育、認可外保育と参加される方が広がり、他の立場の保育者からも意見を聞くことができました。国の基準はあっても、各自治体によって決められていることがあり、実情はいろいろでした。自分達の地域ではどのようなになっているのかを、しっかりと認識していかなければならないと思いました。

地元を持ち帰り、早速に市の条例を見直し、行政へ質問事項として伝える機会ができました。私達は今まで自治体に任せっきりになっていたことに気づき、これからは、もっともっと情報を取り入れていかなければいけないと思っています。

分科会では「家庭的保育って何?」「はじめて知った」などと家庭的保育を知らない方が多く、『もっと知りたい!家庭的保育』のパンフレットを、参加された方に見て頂くことにもなりました。他の立場の保育者の方に、家庭的保育を改めて知ってもらえる良い機会にもなりました。

合研に参加するたびに、日頃の保育を振り返り、反省し、同じ想いの先生方からパワーをいただきます。たくさんのお会い、ご縁に感謝しつつ、来年の合研に今から期待しています。



～30組の笑顔が達成感に～ 草津市『いっしょにあそぼ!』報告

草津市家庭的保育者 辻本隆代
(家庭的保育の家のメリー)

開催日時 2016年9月25日(日)10時～11時30分

開催場所 草津市草津クレアホール

参加人数 親子30組(83名)

✽楽しく遊ぶ姿に感動

当日会場には、30組の親子連れが楽しそうに遊ぶ姿がみられました。この光景に私は、感動しました。ずっと、3か月前から、頭の中で描いていたからです。

✽できるかなと心配も

はじめ NPO 法人家庭的保育全国連絡協議会からお声をかけて頂いた時、有り難い反面大きな不安がありました。まずは、すべての準備を5つの保育室で行なわなければならないことでした。人手が全く足りない状態でのスタートでした。3か月前から会議を始めましたが、課題が大きすぎてなかなか内容が決まらず、何度も「本当に自分達にできるのだろうか?」と、問いかけました。でも会議を重ねていくにつれ、保育者同士が結束し、みんなで励まし合い、少しずつ気持ちが楽になっていきました。

その気持ちをさらに喜びに変えてくれたのは、チラシを見ての第1号の申し込みでした。私達は、2000枚ものチラシを、保育が終わってから配ってまわりました。大変でした。でも、申し込みがある度に元気をもらいました。

✽喜んでもらえた会場づくり

会場には、乳児室、保育室、アスレチック、金魚コーナー、手作りコーナー、イベントコーナー、おみやげコーナーを設けました。乳児室、保育室には、手作りのキッチンや人形など触れて温かみのあるものを用意しました。アスレチックも、子どもが喜びそうな手作りで遊べるも

のを考え、取り入れました。布団圧縮袋に水を入れ、描いてある魚をラミネートし、袋に入れ感触遊びができるようにもしました。金魚コーナーでは、紙コップと花紙で作った金魚を用意しました。手作りコーナーでは、白い紙で牛乳パックを覆い新幹線の本体を作り、子どもたちが自由にシールを貼り、線路が貼ってあるブルーシートで遊べるようにしました。イベントコーナーでは、エプロンシアター、ふれあい遊び、パネルシアター、体操(エビカニクス)ができるようにしました。おみやげもタオルで作った動物を用意しました。これらを前日にすべて設置し、ドキドキしながら当日を迎えました。

✽大賑わいの当日会場

当日、入場門から親子連れが次から次へと入ってきました。子どもたちの目は、キラキラと輝き、すぐにアスレチックや保育室に集まり鉄棒やトランポリン、ままごと遊びなどに夢中になっていました。イベントが始まると親子で近寄り、ふれあい遊びを楽しんでくれました。体操をお父さんと一緒に遊んだり、新幹線作りを兄弟で楽しんだり、熱心に金魚すくいをする子どもを笑顔で見守る保護者がいたり、とても温かい雰囲気の間会場となりました。最後は、どの子も満足そうに手作りのお土産を嬉しそうに抱きかかえ帰って行きました。‘終わった!’私の中で達成感が沸き上がりました。本当にいい経験をさせてもらいました。見学と入所希望もあり、本来の目的も達成できました。



◆草津市のいっしょにあそぼ!

- ①左上の写真はイベントコーナー
エプロンシアター・ふれあい遊び・パネル
シアター・体操などを楽しんで頂きました。
- ②右上の写真は手作りコーナー
牛乳パックで新幹線を作り、子どもたちに
シールを貼って遊んでももらったりしました。
- ③左写真はアスレチックコーナー
親子一緒に楽しく遊んでももらいました。

会員交流会 in 名古屋に参加して

大分市家庭的保育者 橋詰 杉子
(なかよし保育室)

◇初めて参加の交流会 家庭的保育事業に携わって、約 2 年になります。大分では平成 24 年から家庭的保育制度が始まり、現在 9 名が保育を頑張っています。

今回、会員交流会には初めての参加でしたが、席に座るとすぐに声を掛けて下さり、まるで以前からの知り合いの様。不安だった気持ちも吹き飛んでしまいました。

◇笑いながら楽しんだ講演会 『絵本の世界を楽しむ』がテーマの永井先生の講演では、いろいろな絵本をご紹介頂きました。初めて知った絵本も多く、先生に読んで頂くと、自然とその世界に引き込まれ、笑顔になりました。

「まり」「かくかくかっくん」「はーい」など、ご紹介頂いた絵本は、地元に戻ったら早速購入しようと思いました。

◇同じ悩みを共有した交流会 交流会での話し合いは、皆さん同じ悩みを持っていることにビックリ! しました。肩の荷が少し軽くなったような気がしました。自治体によって保育の実施状況が異なることも知り、大変参考になりました。同じ悩みを持つ保育者が力を合わせれば、どんな悩みも解決できると心強く思った交流会でした。

～神奈川・大分など各地から参加～
『名古屋市 会員交流会』報告

名古屋市家庭的保育者 北野澤文恵

名古屋市で初の会員交流会は、2016年10月9日(日)13:30～16:30、名古屋市ウインク愛知1008号室で開催しました。参加人数は32名で、小規模保育や会員外の保育者の他、川崎・静岡・堺・長久手・名古屋・大分市など、全国各地からNPO会員が参加しました。講演会では、絵本を楽しむ笑い声が響き、交流会では共感と共に、真剣な情報・意見交換が交わされていました。



■第1部 講演

『絵本の世界を楽しむ』

JPIC 読書アドバイザー 永井陽子氏

◆笑って過ごした絵本の講演

永井さんが病院やおはなし会などでいつも最初に読む本『はいーい』(みやにしたつや/アリス館)をはじめ、『まり』(文:谷川俊太郎 絵:広瀬弦/クレヨンハウス)、『かくかくかっくん』(新井洋行/学研)など十数冊を、実際に読み聞かせしていただきました。

私たちは一緒に笑い、絵本の楽しい時間は、あっというまに過ぎていきました。

◆読み聞かせへのアドバイスも

「絵本は、抑揚をつけず、たんとと読むのが良いと聞いたことがあるけれど、どうなのか」という質問には、「それは60年くらい昔のことで、今とは状況が異なる。読み手が読み方を工夫して共に楽しむことが出来たらいい」というアドバイスもありました。

■第2部 交流会

◆話合いから地域の現状を理解

交流会では、新しい会員から給食への移行の不安が出されたりしました。一番の関心事はやはり卒室後の受け皿、連携園の問題でした。また「定年」についての質問も出て、「大阪では定年はないよ」「川崎は65歳定年だけど1年ごとに更新出来る」などの情報が寄せられ、自治体ごとに処遇が異なることが分かりました。

限られた時間の中での交流会でしたが、皆様のご協力のおかげで、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。会員同士話し合うことで、自分の地域の現状が見えてきて、行政との話し合いの時など参考になると思いました。

■第3部 親睦会

17:30からの親睦会では、本音のトークが聞かれ、さらに交流が深まりました。

年次有給休暇について

有給休暇は、心身の疲労を回復し、ゆとりある生活を保障するために付与されるものです。取得しても賃金が減額されない休暇であり、日数は労働時間の長さによって決まっています。フルタイムで働く場合、半年勤めた時点で10日の有給があります。1年毎に与えられる有給の休暇のため、年次有給休暇と言います。有給休暇の日数は、基本の日数と、労働日数に比例して付与されるものの2種類があります。

週の所定労働時間が30時間以上

所定労働日数が週5日以上

1年間の所定労働日数が217日以上



このうち1つでも該当すれば基本の日数になります。この条件に該当しない週2日、週3日勤務など、週の中で働く日数が4日以下、もしくは1年間の所定労働日数が216日以下の場合は、勤務日数により決まっています。有給休暇は、所定労働日数が48日以上から発生しますので、週1日勤務でも半年たてば1日の有給休暇があるという事です。

事業主は、勤続6ヶ月を経過し、全労働日の8割以上を出勤した者に対し、所定の日数の有給休暇を付与しなければならず、補助者等の従業員が有給休暇を申し出た時は、原則として受け入れなければなりません。ただし、正常な業務を妨げるおそれがある場合は、別の日にずらすよう要求することができます。有給休暇は、自由に、気持ちよく取得できるような職場環境づくりが大切です。有給休暇は、働き始めから2年半後には消滅してしまいます。手間とコストがかかりますが、働く意欲につながりますので、有給休暇の管理には気を付けたいものです。

基本の表

勤続年数	6ヶ月	1年6ヶ月	2年6ヶ月	3年6ヶ月	4年6ヶ月	5年6ヶ月	6年6ヶ月以上
休暇の日数	10日	11日	12日	14日	16日	18日	20日

比例付与の表

週所定 労働日数	1年間の 所定労働日数	勤 続 年 数						
		6ヶ月	1年6ヶ月	2年6ヶ月	3年6ヶ月	4年6ヶ月	5年6ヶ月	6年6ヶ月以上
4日	169日～216日	7日	8日	9日	10日	12日	13日	15日
3日	121日～168日	5日	6日	6日	8日	9日	10日	11日
2日	73日 ～120日	3日	4日	4日	5日	6日	6日	7日
1日	48日 ～ 72日	1日	2日	2日	2日	3日	3日	3日

補助者雇用について

補助者雇用について問合せがありましたが、皆さんなかなか見つからずお困りのことと思います。全国で「子育て支援員研修」が実施されています。子どもが健やかに成長できる環境や体制が確保されるよう、支援の担い手となる人材を養成するもので、「地域保育コース」は家庭的保育の補助者になるために必要な研修です。この研修を修了された方を、家庭的保育の補助者として雇用できればと思います。求人情報をハローワークや、各都道府県にある保育士・保育所支援センター等に出し、雇用の促進を図っては如何でしょうか。ホームページで補助者が見つかった事例もあります。

積極的に求人情報をお願いし、優秀な補助者を確保していきましょう。

(和田朝美)

わが子の一言から始めた家庭保育室

名古屋市前家庭的保育者 藤野久恵

§ 保育を始めたのは

五人目の末っ子（3女）が、小学1年生になり、子育てが一段落仕掛けた時、高校1年の長女の「お母さん、働いたら！」の言葉で、働くモードになりました。名古屋市広報に、家庭保育室の募集を見つけ、「これだ」と！「家

にいて保育が出来、お金も入る・・・」
私は、当時47歳。小学生から高校生までの子どもが5人いました。子育て経験と13年間名古屋市の障がい児施設での保育士経験があり、若干の不安もありましたが、できると思いました。

§ 保護者と成長を楽しむ保育

平成14（2000）年8月1日に指定を受け、保育を開始。保育室名は「こひつじ」（私が未成年生まれでした）としました。

子どもを、共同保育所、公立保育園、公立幼稚園に預けていた頃のいろいろな思いがあり、子育ての苦楽を保護者と共にしたいと考えました。

給食を提供し、8時半から18時までの受け入れをしました。最初の受託児は、2歳の女の子と生後2ヶ月の男の子の二人。熱意が過ぎていろいろありましたが、一番記憶に残る子どもたちです。保育では、自然に親しむことを大事にしました。「こひつじ」の裏は下池公園で、階段を降りると遊歩道です。自然環境良好。天気がよければ散歩しました。1人休むと、バス、地下鉄で小旅行。子どもからは「おばちゃん」「ふじののおばちゃん」、保護者からは「藤野さん」。時として、おばあちゃんと聞こえる時もあり、苦笑いです。

§ NPO 法人との出会い

「こひつじ」を始めた時に、名古屋市には9人の指定保育者がいました。NPO 法人会員

も2人いて、各家庭保育室の見学や、手作りおもちゃを作ったり、食事会をしたりと親睦を図っていました。私には本当に支えでした。

家庭的保育全国連絡協議会とは2010年（平成22年）2月、名古屋市の研修会がきっかけでした。現理事長の水嶋さんたちのアドバイスをもらい、制度の充実を図るために、家庭保育室の会を発足し、現在に至っています。総会、親睦会、セミナー、合研など、いろいろとお世話になり、感謝しています。

§ 名古屋市の家庭的保育制度

1964年（昭和39年度）、名古屋市では独自に、家庭福祉員制度を開始しました。

2000年（平成12年度）には、国が家庭的保育事業を制度化したのに伴い、名古屋市は国の制度に沿って見直しを図り、家庭福祉員制度を、家庭保育室制度に名称変更しました。

さらに家庭保育室制度は、2010年（平成22年）4月より、乳幼児の保育に関して保育所を補完する役割の家庭的保育事業として、児童福祉法上に位置づけられた制度になりました。個人が実施する5人型保育室、保育所実施型保育室ができました。2011年（平成23年）3月現在は23保育室。3人型が18か所、5人型が15か所、保育所実施型家庭保育室が13か所。2016年4月は、3人型保育室は6か所、5人型保育室は16か所です。

§ 家庭保育室を閉室に

2016年3月「こひつじ保育室」を61歳で閉室しました。子ども・子育て支援新制度では子育て支援員研修を受講した補助者を雇用することになっています。現実には難しく、他の理由もあり、残念ですが閉室致しました。

お世話になった皆様への感謝と共に家庭的保育事業の更なる充実を願っています。

♪絵本の世界を楽しんで♪

山形市家庭の保育者 小番美香

Ωえほんを読むのは

遊んだおもちゃを片付けて、子どもたちが昼食を取る前や、午睡する前など、生活の流れの切り替え時に気持ちも切り替えられるように、絵本を読んでいます。子どもたちが楽しんでいる絵本を、そのなかからご紹介します。

Ωおすわりくまちゃん

デイヴィット・ウォーカー

シャーリー・パレント

福本友美子やく 岩崎書店

ぽちぽちくまちゃん、ふわふわくまちゃんなど、5人の可愛いくまちゃんが出てくる絵本です。くまちゃん5人が、4つしかない椅子をめぐって、工夫し、仲よく椅子に座れた！という、楽しい本です。

くまちゃんたちが、「保育ママ・こつがい」の5人の子どもたちにリンクし、みんな大好きで、お気に入りです。

特にこの本は、子ども同士の気持ちがぶつかり合ってライバル意識バチバチな時に読むことが多く、子どもたちの名前を加えて〇〇くまちゃんと読んだりしています。

読み終えると絵本の最後と同じように、ぎゅっぎゅっとくっつきます。すると不思議と楽しく、お互いに気になりながらも、なかなか一緒に遊べなかった子どもたちも、ニコニコ笑顔で触れ合うのです。

楽しみながら、相手を受け入れるという、優しい気持ちを育む本だと思います。

Ωあかちゃん はい

いしかわこうじ ポプラ社

『あかちゃん はい』『いぬさん はい』と、あかちゃんの簡単な動作を、様々な動物たちが真似していく本です。

読むときはプラスして「みんなも～はい！！」と加えて、子どもたちも真似をします。「パチパチ」「おいしい」「ごろーん」「はいはい」等々非常に簡単な動作ですが、3歳になる子も楽しそうにします。

絵本を通しての真似という全身運動から、本当の赤ちゃんに対しても絵本に出てくるような動作ができると、「〇〇くんもできた！じょうず！」と気づいたり、簡単な言葉で優しく話しかけてくれたりと、小さいお友達との関わりのきっかけのひとつになる本だと思います。

Ωおいしいとびらを とんとんとん

土田義晴 脚本・絵 童心社

まる、しかく、さんかくの扉を「とんとんとん」とすると、丸い形、四角い形、三角の形の食べ物が出てきます。「りんご！」「メロン！」などと言い当てるのが面白く、三角のときにはちょとしたドキドキもあったりと、楽しく食べ物に親しめる紙芝居です。

食べ物に興味が出て、私たち大人にも興味が出てきて、ママの真似をして見事な包丁さばきで千切りのおままと、また私たち保育者の真似をしてお世話ごっこする姿なども見られます。そこで、この紙芝居のミニサイズを手描きで作ってみました。保育者の読む姿をまねて、子どもたち同士で遊んでいます。食べ物や食材まで興味をもてる紙芝居だと思います。



● 童心社 ● 土田義晴

家庭的保育の温かさを伝えた 第7回『いっしょにあそぼ！』

川崎市家庭的保育者 長田京子

◇7回目も楽しんで

今年もたくさんの笑顔が見られた「第7回 いっしょにあそぼ！」(川崎市家庭的保育協議会主催)は、9月10日(土)AM10:00より川崎市幸区「子ども支援センターふるいちば」にて開催いたしました。平成22年にNPO主催のもとで初めて開催してから7回目の「いっしょにあそぼ！」です。

今回私が担当したのは、パネルシアターコーナー。パネルシアターや大型絵本、人形劇、ブラックシアターなどです。

担当の家庭的保育者や補助者と「こんな風にしたら？」と子ども達が笑顔になることを想像しながら構想を考え、作り上げていくことは、とても楽しい作業でした。

◇保育室紹介冊子も作成

また今年は、10月より始まる保育所利用申請に合わせ、川崎市の家庭的保育者の保育室紹介冊子を、1,000部、作成することもできました。

◇50組の笑顔が励みに

そうして迎えた当日は家庭的保育者24名、補助者29名、合計53名が連携を図りながら、準備を行うことができました。

参加者のご家族は、駅から遠方にも関わらず50組ご来場いただき、ベビーマッサージ・手作りおもちゃ体験・かわいい創作バルーンのコーナーで楽しめました。

ミニ保育室では、子ども達がのびのび遊び、保護者は少し休憩をしながら家庭的保育者へ子育ての相談や家庭的保育への質問などをされていました、また各保育室の紹介写真コー

ナーでは、家庭的保育の温かさをを感じ、興味を持って観て下さっていたのが、印象に残っています。

◇毎回好評の手作りおもちゃ

毎年恒例の手作りおもちゃのお土産は、各保育者がそれぞれ持参し、子ども達もお母さんも目移りするほどで、大人気です。

◇嬉しかったアンケート

参加後のアンケートでは「家庭保育の先生が笑顔で、とても癒された」「来年も来たい」といった感想を寄せて頂き、嬉しい瞬間を味わいました。

◇行政の理解が支えに

また今年も川崎市の保育課職員や指導員の方にご来場いただきました。家庭的保育者の、保育に対する熱い思いや、家庭的保育者と補助者の協力の輪が保育の力になっていることを感じていただきました。「家庭的保育は本当に頑張ってますね」と反省会&親睦会で、声をかけてくださいました。

私たち家庭的保育者ひとり一人は微力ですが、川崎市24名全員の力を合わせて家庭的保育の魅力を多くの方々に伝えられるように、これからも取り組んでいきたいと思います。



事務局からのお知らせ



□家庭的保育現任研修のご案内

ニュースレター25号が皆様のお手元に届く頃には、年に1回の関西での現任研修も終了している頃かと思います。今後の研修は、11月の講座6「家庭的保育の個人情報－変わる個人情報保護のしくみ」（山本伊都子先生）、講座7「家庭的保育者として身に付けたい専門性-保育マインド」（網野武博先生）、2月の講座8「子どもを預かる現場におけるリスク・マネジメントとコミュニケーション」（掛札逸美先生）、3月の「家庭的保育の安全講習会」となります。どの講座もあと少し空きがありますので、是非ご参加ください。

なお、講座8の掛札逸美先生は、安全に関する情報提供をするウェブサイトを立ち上げておられ、是非活用してほしいとご案内いただきましたので、紹介します。

保育の安全・教育センター <http://daycaresafety.org/index.html>

トピックスを開いてください。 http://daycaresafety.org/topics_main.html

担当：研修事業部

□新情報連絡会 報告

新情報連絡会では、新制度2年目の課題や、「地域の今」など、事前にテーマを募集し、話し合っています。第18回は、7月31日(日) 大田区産業プラザ Pio で44名が参加して、ICT化推進・保育室の安全対策・防虫対策・連携施設・3歳児の壁など、頂いた提案を基に、意見交換をしました。安全対策への関心は高く、近くの交番に見回りを依頼したり、警備会社の見積りを取ったり、具体的に対応していることが報告されました。

第19回は、東京都中央区の中小企業会館で、41名が参加し、島根合研参加者からの報告を中心に意見交換をしました。障害児保育や補助者の子育て支援員研修などについても、話し合われました。認可園での事故報告から、記録の重要性なども再確認されました。

第20回は、11月13日(日) 大田区産業プラザ pio にて、12時40分から13時20分の研修の合間にランチを頂きながら話し合いたいと思います。ぜひご参加ください。

担当：市瀬多鶴子 松尾サワ子

□熊本地震義捐金へのお礼

ニュースレター24号でもお伝えいたしましたが、4月に発生した熊本地震によって被災された熊本県会員7名の方に、義捐金としてお一人3万円を送ることができました。

その会員の方たちからお礼のお手紙が届きました。皆様のお気持ちに感謝して、それぞれ保育に必要なことに役立ててくださるとのことでした。

改めて皆様の温かいお気持ちと励ましにお礼申し上げます。

被災された熊本の方々の一日も早い復興を願い、報告をさせていただきます。

理事長 水嶋昌子

□会員専用 メール情報配信のご案内

☆会員の皆様に情報配信したメール（平成 28 年 7 月～9 月）

- ・ 7 月 10 日 消費税について
- ・ 7 月 30 日 第 18 回新情報連絡会開催のお知らせ
- ・ 9 月 3 日 第 19 回新情報連絡会開催のお知らせ

☆登録はこちらから

- ①パソコンメールアドレス ②携帯メールアドレス ③会員番号 ④お名前
- ⑤自治体名 をメールで送信してください。

※ご不明な点は info@familyhoiku.org までお問い合わせください。担当：松岡かよ子

□第 13 回東京都家庭的保育者研修会のご案内

一部では、東京都の富山新課長から国制度、都制度についての考え方や、昨年からはまった保育士等キャリアアップ補助、保育サービス推進事業、保育力強化事業などについて伺います。二部では、松家まきこ先生による、小さな保育室でも可能な「パネルシアター」や「ふれあいタオルあそび」の楽しい実演です。明日からの保育で実践できます。

日 時：	平成 28 年 11 月 23 日（祝）	13：00～16：30
会 場：	都民ホール（都議会議事堂 1 階	新宿区西新宿 2-8-1）
定 員：	288 名	
参 加 費：	3,000 円（資料代「パネルひろば」とふれあいタオルあそび用のタオルを含む）	
申し込み：	多摩地区家庭的保育者の会 mail@home-hoiku.info	

主催：東京都・東京都家庭的保育者連絡会

協力：東京都家庭的保育者の会・多摩地区家庭的保育者の会

□第 30 回東京合研のお知らせ

- ・ 開催日 2017 年 2 月 5 日（日）9：45～16：00
- ・ 開催場所 大東学園高校（東京都世田谷区船橋 7-22-1）
- ・ 参加費 2,000 円 保護者・学生 1,000 円
- ・ 記念講演 アーサー・ピナード氏（詩人・絵本作家/中原中也賞・日本絵本賞受賞）
- ・ 主催 第 30 回東京合研実行委員会
- ・ 連絡先 東京保育問題協議会（TEL03-3339-1601）

□サイトのご紹介（保育睡眠中の突然死予防プログラム）

平成 23 年現任研修「乳幼児の命を守るために—SIDS 予防と窒息死回避の対応を学ぶ—」講座の中村徳子先生より、少しでも多くの方にプログラムをお伝えして頂きたいと言う事でご案内頂きましたので、ご紹介します。『仁志田先生からプログラム推薦のお言葉を頂き、普及活動に一層の力を頂きました』とのコメントも寄せられております。

保育睡眠中の突然死予防プログラム <http://www.ne.jp/asahi/master/lfsa/pdf.html>

◆編集後記 島根合研では小規模・院内保育などの皆さんと出会い、大規模保育施設（650 人）や企業主導型保育事業増加等の情報を多々頂きました。「知らされていないことを知る」必要性を実感した合研でした。25 号発行にご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。 高槻由美子